

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291300180		
法人名	株式会社アース		
事業所名	グループホームまーがれっと長泉 (2ユニット共通)		
所在地	駿東郡長泉町下長窪645-2		
自己評価作成日	令和 4年 1月 17日	評価結果市町村受理日	令和4年 5月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和 4年 3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームで、お客様が生き生き過ごせる生活空間作りに努めており、可能な限りお客様の希望を選択して頂いています。レクリエーションの充実を図ることで活動量を増やしています。また、ご家族が安心して頂けますよう信頼関係の構築に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「快互」～私たちは互いに快い時を提供します～、また、事業所目標「互いに明るく楽しく笑顔溢れるまーがれっと長泉」を隔月発行のお便り「まーがれっと長泉便り」に毎回掲載し、家族に伝えている。運営推進会議議事録配布時には返信用紙と返信用封筒を同封し、10名程度の返事から意見や要望等を次の議事録で紹介している。議事録は、地域関係者への状況報告に加え、家族のコロナ禍の不安に寄り添った内容となっている。特徴として、希望者には会社所属のリハビリ専門職員によるマッサージを各居室で行い、自社グループ会社で栽培収穫した無農薬・減農薬の米を毎食炊いて提供している等が挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼後、会社の理念と事業所目標を唱和して業務に就いている。月に1度の面談1on1(ワンオンワン)において、リーダーと職員がマンツーマンで理念や方針を確認している。	職員は毎月の面談で何を意識しているか等の報告を行い、リーダーが理念や方針に沿っているか確認している。理念「快互」を裏付けるように、家族は関わる職員が心地よく迎えてくれると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍前は、毎月ボランティアの方に訪問して頂き、笑いヨガ運動や傾聴ボランティアの利用等により交流を図っていたが、現在訪問はない。	自治会回覧板は回付ではなく、地区の広報誌等は戸別に投函されている。事業所の案内等も近隣にポスティングしており、今後も不定期であるが継続していく意向である。地域行事への参加やボランティアの受け入れは、再開以降も積極的に行っていく。	管理者はコロナ禍中に着任しており、地域行事参加やボランティア受け入れに関する把握が不十分である。再開に向けて、関わりのある地域行事やボランティア等について再確認しておくことが望ましい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、運営推進会議を通じて地域の方への報告や行事などを通じて、認知症の方との触れ合いの場を設けていたが、現在はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてご家族や出席者に意見を求め、地域からのニーズを把握し、改善に努めている。	議事録の配布先は、利用者家族、町担当課や健康増進課、地域包括支援センター、区長、民生委員等である。配布先からの意見要望に関する回答を毎回記載している。面会状況に変化がなくても変化がないことを知らせたり、家族の不安に寄り添ったコメント等を記載している。	議事録は家族全員に同様に配布し、職員全員が内容を共有しておくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括・介護福祉課と密に連絡しており、また社会福祉協議会とも協力関係を築けるよう取り組んでいる。	現在、町からの連絡は主にメールである。議事録配布先には郵送しているが、今後は町担当課に可能な範囲で持ち込み、顔つなぎと会議再開時の出席依頼をする機会としていく。町の介護相談員派遣事業についてリサーチし、メリット等を事業所内で検討していく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を開催して取り組みを共有、全体会議にて職員に周知を図っている。	3か月毎に委員会を実施し、身体拘束や事故等の現状報告を行い、今後の取り組みや対策について話し合っている。カンファレンス等で3原則「切迫性」「非代替性」「一時性」について反復している。アンガーマネジメント(怒りのコントロール)に関する参考資料を提供し、効果が見えた職員がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に研修やカンファレンス等でお客様の状況把握・共有をする事で、個人ごとのケアについての問題点等話し合いを行い意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・日常生活自立支援事業の利用 該当者には、地域包括に相談、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書にて説明させて頂き、コロナ禍前はご家族来所の際は声掛けし、何か不明な点等ないか確認させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置させて頂いていると共に、苦情相談窓口等で家族の意見は反映させてもらっている。	自然災害の影響で傾いている入口付近のフェンスについて、前回調査時に家族から指摘を受けている。オーナーには継続して修理依頼をしており、近々動きがある見込みである。会社が変わったが、理念や方針は同じであり、家族に不安を与えないような対応に努めていく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、一対一の面談の場を設けさせて頂き、反映に努めている。	会社変更に伴い、管理者とケアマネジャーが変更になったが介護職員は概ねそのままである。職員間の関係性は良好で、従来の慣例や近隣との関係性等について職員から教えてもらうこともある。勤務調整の相談や外気浴の実施増進について等、カンファレンスで提案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標を立ててもらい、それに向けて頑張った人に対して評価し、給与などの水準をあげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の方で定期的に研修などは開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士、職員同士の交流があり、サービス向上のための取り組みは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランなどは本人の意見など、お客様に沿ったものになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の困っていることなどには、積極的に耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部サービスなども利用しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様の関係性は生活の場として築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも定期的に連絡をとり、必要なものなどは提供をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との連絡を施設側から密に取るよう心がけている。	ペースメーカーの交換で専門医に受診する人のみ家族の付き添いで外出しているが、自宅への外泊も中止している。オンライン面会は実施の方向で進めている。事業所の電波状況がネックとなる可能性も踏まえ、前向きに整備していく考えである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を把握し、孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援、相談には積極的に関わりを持つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご家族等にご本人の暮らし方や性格等を伺い、ご本人の意に添うよう把握に努めている。	認知症の周辺症状であっても、行動の目的や理由を見つけることに注力し観察を継続している。職員の態度や言葉かけ次第で気持ちを素直に発する利用者もいることから、余裕を持った対応と言い方に配慮していく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様のご家族等にこれまでの暮らし方等聞き入れ、今までに近い生活環境で過ごせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活環境はなるべく変わらないよう、毎日の過ごし方等把握するよう努めている。 残存機能の活用を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場や家族の意見などは必要に応じて行っている。	モニタリングは課題を職員全員で話し合い、ケアマネジャーが実施している。利用者の情報を満遍なく網羅できるように、フロアリーダー、居室担当者、ケアマネジャー、管理者で担当者会議を行うようにした。主治医や家族の意見を踏まえて介護計画を作成し、同意を得ている。見直し期間は短期3か月、長期1年を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人の記録を記入して、記録の下、介護計画を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様を支えているため、その時の状況などをご家族に話し、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前はボランティアの方や知人が訪問され、話し相手になったり、地区のお祭りなどの行事にも参加していたがコロナ禍で今は実践できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診、往診はご家族の納得のもと適切な医療を行っている。 受診は、都度報告させて頂いている。	協力医以外に入居前の主治医をかかりつけ医とする利用者もいるが、何れも月2回の定期往診がある。訪問看護は事業所契約と主治医指示によるステーション2か所と連携している。毎月訪問観察があり、24時間体制で主治医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の身体の状況等気付いたことを訪問看護ステーションの看護師等に伝え、相談し、適切な受診、看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された時は常に病院へ訪問し、病院の関係者との情報交換や相談などを行い、関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いは早期に行い、ケアプランなども終末期の物にチーム支援で取り組むようにしている。	今年度は4人の看取り支援を行っている。看取り期となったらユニットでカンファレンスを実施し、全体会議等で内部研修を行う流れである。日常的なケアがきれいになされていたことに、介護職員の本人に対する思いやりの気持ちが感じられると家族から感謝の言葉をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故(怪我)等に備え、管理者より対応の仕方を受け、実践力を身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策としては、火災、地震などに備え、年間2回の防災訓練を実施している。	前回ステップであった夜間想定訓練は実施できていないが、今後は年1回訓練に組み込んでいく。ハザードマップや待避場所の確認を行い、蓄電池や生活水の確保について検討していく。3日程度用意している備蓄は、職員全員が場所や賞味期限等を把握できるように見える化していく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し尊重しながら、話し方や接し方等に気を付け、接遇については特に注意を払っている。	「NGワード言葉の言い換え表」を掲示し、接遇に関するリストで定期的に自己チェックを行っている。他の利用者の食事を下膳してしまおう人に対して、善意の行為であることに配慮した言い方で接することを職員間で共有している。洋服に拘りのある人の更衣の際には、自己決定を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力本人の意見など希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はご利用者様の対応を優先し、ご利用者様がどのようにしたいかを聞き入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要なものなどは購入できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しく頂いてもらうためにその日のメニューや好きな物を聞き、一緒に片付けなどをしてもらうよう声かけを行っている。	栄養管理された湯煎のおかずは種類が豊富で、一汁三菜が徹底されている。自社グループ会社栽培の米を毎食炊いて、みそ汁等も手作りである。おやつの中には好みの飲み物とお菓子を提供し、季節の行事食等も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日を通して声かけなどをし、摂取してもらえるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後自分でできる方は、極力してもらえるようケアをしている。週1回、歯科往診を行い、清潔保持を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員がその人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする等、自立支援に向けた支援を心掛けている。	個別の排泄シートでパターンを把握して時間で誘導し、何か訴えがあると職員をじっと見つめる等の個々の癖を身逃さずに声掛けしている。不調時には、無理をせずベットのポータブルトイレの使用を進めることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防には取り組めていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は湯船につかってもらい、身体を洗うことは気持ちが良いというのを習慣づけ、入浴して頂いている。曜日、時間等個人ごとの希望に添った支援までできていない。	週2回を目標に午前中に入浴している。拒否があってもトイレに誘うタイミングで入浴に至る人もいる。脱衣所にストーブを設置し、浴室はシャワーの湯気で室温を上げてヒートショック対策を行っている。お湯は適温を保ちながら、循環させている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人、ひとりの睡眠する時間を把握し、その時の状況に応じ、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて一人、ひとりの薬の服用を把握し、用法・用量について把握、症状の変化の確認に努めている。また、誤薬を防ぐため服薬支援ロボットにて配薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく過ごせるよう会話をしたり、聞いたり、体操、ぬり絵など一日が飽きることはないよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナのため、できていないが、収まった時には、家族・本人の希望にそった支援を行っていきたいと考えている。	事業所敷地内を歩いたり、プランターに花を植えたり、ベンチを出して日光浴をしたりして無理のない範囲で外に誘っている。散歩に拘らずに、ラジオ体操などで日常的に体を動かす事と日光浴を組み合わせるバランスを取るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしておらず、希望に添ったものをこちらで購入する形をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などの協力を得られれば、電話手紙のやりとりを支援できるよう務めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等ご利用者様が共用している場所は不快な思いをさせないよう毎日掃除する等、環境整備は行っている。	居間に行事予定を掲示し、桜の飾り付けは職員と折り紙で制作している。午後にパズル等の脳トレを行い、夕方に歌を歌っている。昨年冬の花植え会でプランターにパンジーを植えたのを機に、今後も四季の花を植えていく。定期的に換気を行い、エアコンのフィルター清掃は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士を近くにしたりと居心地の良い環境を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家でご本人が使っていた物や、ご家族と相談しながらご本人の使い慣れた物を置き、気持ちよく過ごせるようにしている。	居室で日中休息を取る人、夕食後にテレビで好きな番組を観る人、健康管理で血圧表を壁に貼る人など様々である。ドアの鍵をかけて寝る人には、注意を払いながら寝たタイミングでドアを開けて見守っている。衣替えは年2回スタッフが行うが、希望で持ち込む家族もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの中はご利用者様全員が安心して過ごせるよう心掛け、ご利用者様が安全な生活を送れるよう工夫した環境づくりに努め、本人様のできることは奪わず支援を行っている。		